

【昇級昇段審査感想文】

昇級審査を前にして、今思うこと 一般の部 女性（主婦）

合気道を始めて4年目に入りました。一週間前の稽古で習ったことをすっかり忘れてしまっていたり、技の動きをなかなか上手につかめなかったりの繰り返しでしたが、私のような覚えがスローな者に対しても丁寧にあたたくご指導してくださっている先生には、毎回頭が下がる思いでいます。私は家庭の主婦ということもあり午前の部を週に1回のペースで稽古させていただいておりますが、稽古数が限られている分とても貴重な時間になっています。稽古中は、自分なりに一生懸命に取り組んでいます。

しかしながら、技術の方はまだまだ未熟です。

一方で私と同世代の方でも上達が早く、順調に昇級されている方もたくさんいらっしゃいます。「私は40代のおばさんだから・・・」と年齢のせいにする、ただの言い訳にすぎませんし、情けなくなるのでなるべく自分から逃げ道をつくらないようにしています。

プライドを高くもっていたり、体裁を気にして見栄を張っているうちは、何も進歩もありません。出来ない時は、忘れてしまったと素直に現実の自分を認めて、そこからできるように努力し頑張るしかないと思います。

稽古を続けていく過程で、大抵の方は多かれ少なかれ葛藤やスランプ等の悩みに直面する時期があるかと思います。実際、私にもこの数年間に幾度か自分の中で大きな波や小さな波がありました。そんな時に、自身の励みになったのは、ご指導いただいている先生からのあたたかいサポート、心ある塾生の方からのあたたかいサポートでした。私がこれまで合気道を継続できているのも決して自分の力だけでなく、周囲の方々からの支えがあったからこそだと改めて感謝しております。

合気道は甘くないし簡単なものでもありませんが、もし今何かを真剣に始めたいと考えている大人の方がいるとしたなら、是非合気道をすすめたいものです。この時代、大人達こそ原点にかえて学ぶべき事があるのではないかと考えることがあります。

大人だからもうそれで完全ということは、どこにもありません。大人が正しい方向性をもって成長し続ければ、将

来を担う子供達は、大人達を信頼し、安心をして自然と後からついて来るものと思います。もっと大人達の心が本来の日本人らしさを取り戻し、しっかりすれば世の中ももっと良い方へ変わっていくのではないかと考えてなりません。互いに尊重し高め合い相手を思いやる心を重んじる合気道。合気道は正しい心、強い心、愛の心、一言では言い尽くせませんが、人として生きるために必要な大事なことを教えてくれる、この上ない素晴らしい武道だと私は思っています。

合気道に巡り会えたことに日々を感謝しつつ、自己修養に努めて参りたいと思います。

これからも、親子共々ご指導をどうぞよろしくお願い致します。

子供の部で学んだ事 一般の部 男性（中学生）

僕は、先日先生のお手伝いとして子供の部に行きました。準備体操をして技を教える手伝いをしました。

そして稽古の中で感じた事は、小さい子が張り切って元気に声を出していたり、一生懸命に走ったりして小さい子は小さい子なりにとっても頑張っているなという事です。僕は元気に合気道を学んでいる小さい子供達を見て、この小さい子供達は楽しんで合気道を学んでいるのだなと思い、自分はどうかと考えるってみました。すると僕は真剣に取り組むあまり、合気道を楽しむという気持ちを忘れていたことに気がきました。

僕も小さい時はこんな風に合気道を教わっていたんだなと思い出しました。合気道を稽古する事が楽しいと感じている子供達にもっと合気道を好きになって大きくなって合気道が続けたいと思ってくれるように、一つ一つ丁寧に相手が楽しいと思ってくれるように教えようと思いました。子供の部のお手伝いができとても良かったです。

合気道と私 一般の部 男性 (30代)

私が神武錬成塾に入門し合気道を習い始めてから、早いもので六年の歳月が経とうとしています。この六年間を振り返ると合気道の稽古に通う事で大変有意義な余暇を過ごせ、心身共に健やかで充実した日々を送る事が出来ました。

入門してからの約二年間は早く技を覚えたい一身で、塾長の背中を追いかけ仙南地区の教室を巡り、週に五日、六日と稽古をさせて頂き、物覚えの悪さを何とか補おうとしていたのを覚えています。

その後、職場内での移動があり以前の様に稽古に通えず稽古日数も減りましたが、初段を目標に、自分の袴姿を夢に見て、何とか時間を作っては稽古に通わせて頂き、塾長の御慈悲で至らずながらも初段を頂く事が出来ました。

私が初段を頂いたのは入門してから三年と幾月か経った頃で、黒帯と袴を手にした時の感動は今でも忘れる事が出来ません。これまでの経過が形になった瞬間です。これは合気道を志し、続けた者にしか味わえない喜びでしょう。

しかし、不思議な事にこの喜びは長く続くものではありませんでした。黒帯を締め、袴を着けた瞬間から合気道や所属道場へ対する責任感の様なものが湧いてきて、ゴールだと思っていた地点がただの通過点で、厳密に言うとスタート地点であった事に気付かされます。私なりの解釈ですが、これは、試合ではなく審査で昇段、昇級の判定を行なう合気道独自の感覚で、周囲の目が有段者のあるべき姿を求めるのです。

至らずながらも初段を頂いた私には残された課題が沢山あり、初めて黒帯を締め、袴を着けたあの日から自問自答を繰り返しては、楽しいながらも悩み多き稽古を続けさせて頂いております。大切な事は素直に合気道と向き合い謙虚な姿勢で振舞い、驕りを捨てる事だと思います。まずは心を育み、それを土台として技を学び、体を作り「心・技・体」のバランスを図りたいものです。

現在は、式段への昇段審査に向け稽古をさせて頂いております。塾長から受験するよう御声を掛けて頂いた時には大変戸惑いましたが、初段審査から三年弱、今は目標を持って稽古に臨む事が楽しく、この様な機会を与えて下さった事を感謝しております。

昇段審査では合否にこだわらず自分の合気道に対する想いに、熱心に御指導下さった鈴木先生や竜次先生、御協力下さった塾生の方々から頂いた誠意を込めて塾長に技を披露したいと思います。

最後になりますが、塾長の方針の下、各先生方や塾生の方々に支えられて私の合気道ライフは成り立っています。

神武錬成塾で稽古できる事を誇りに思い、関係する全ての方々へ感謝の気持ちを持ち続けたいと思います

幅広い合気道観 一般の部 男性 (50代)

合気道の人気と言いますか、普及は、日毎に増しております。

人によってはスポーツとして、または、健康の為に合気道を習われている方もいます。目的はどうかであれ、多くの方が永く合気道を楽しんでおられます。合気道も本来は武道ですから楽しむという言葉は禁句かも知れません。

神武錬成塾の中では、「感謝の気持ち、礼儀作法、思い遣りの心」など、人びとがそれぞれの人生を楽しく過ごせる術(すべ)や広い心の持ち方を、教えて貰っているのです。

和気藹々とした日々の練習。その中に観られる礼とその厳しさ。

それは塾長が持っている幅広い合気道観から来ているものと思います。

私は、新宿の合気会本部道場へ月一、二回稽古に行きます。

時々、白川塾長と道主の姿がかさなって見えることがあります。

私は直接何度か植芝道主からお話しを聴く機会がありました。

「強くなるより旨くなってください。」

「指導者の手本をしっかり見なさい。」

「力より技、技より稽古、-----。」

滑らかな捌きの中にある技の強さを教えてもらっているのが、神武錬成塾の良さと信じております。

合気道を始めて 一般の部 女性（20代）

合気道を始めて早くも三ヶ月が経とうとしています。

正直に言うと私は合気道のことはなにもわからないままに見学に来ました。

護身術というイメージしか無かったのですが実際に初めて稽古を拝見させていただいた時はなんて綺麗なのだろうと思いました。

私は今まで武道に関わったことがなかったので自分にこんな凄いことが出来るのだろうかとても心配でしたが皆様とても親切にしてくださり楽しく稽古に励むことが出来ます。

護身術にと思い始めた合気道でしたが、合気道を始めてからは毎日がとても楽しく過ごせるようになりました。私は幼い頃からテニスをしていて、たとえプロになれなくともどんな形であれ生涯テニスを続けるものと思っていましたが足の怪我によりテニスを続けることが困難になってしまい、自分にはもうなにも無いと大きな喪失感で押しつぶされそうになっていました。あまり走ることが出来ないため他の競技を始めることも出来ずなにもかも諦めていました。合気道を始めるときも護身術にと思ってだけで合気道を楽しもうとか生涯続けようとは考えていなかったのですが、今はただ合気道が楽しくて楽しくて仕方なく「護身術」なんて名目すらそっちのけで合気道にはまり込んでいます。

合気道を始めて三ヶ月しか経っていないと言うのに私の中でテニスより合気道への想いのほうが大きくなっていることに驚いております。生涯合気道が続けていけたらと願っておりますのでそのためにも焦らずゆっくりと怪我に気を付けながら頑張りたいと思います。

合気道に出会えたこと、そして神武錬成塾に出会えたことを心より嬉しく想います。

未熟者ではございますがこれからもどうかよろしく願いいたします

合気道神武錬成塾に入門して 一般の部 男性（60代）

合気道道場、これまで自分の人生で踏み入れたことのない場所、まるで良質の魔法大学に入学したような気がする場所、襟を正したくなる場所、ひからびかかった童心がみずみずしく満たされる場所、凜とした指導員の美技、その技をいつまでもずーとみていたいと思っていると『さーどうぞ』とうながされいつも残念におもう場所。自分でやってみると大変です。むずかしくて混乱します。『やってみせる教育』『教科書のない教育』『教えない教育』は『自発性』の開発につながり、とても大切なことなんだということ。私のいた企業をはじめ多くの企業には、このような考え方が出来なかったように思えます。

企業はコストや手間を省くこと、指導員はそれにのっとりタイ焼のように、きまりきった技術者を養成する事そして満足していたのでした。『自発性』の開発の他にも素晴らしいことがあります。道場の指導員はいつも凜としていて立派です。ここはあいさつに始まり、あいさつで終わる。あいさつが自然にできる人間を育てること、実に大切な教育で立派な躰です。黙想もすがすがしいことです。大人も子供もごった煮のように同じ社会を生きています。ストレスは大人だけのものではないと思います。いや、子供は大人以上にストレスを感じその心はささくれ立っているかもしれません。子供たちに黙想を習慣としているのを目の当たりしました。穏やかな心を保てるとういうのは、人生の中で何よりも宝物になるのではないのでしょうか。凜とした指導に頭がさがります。私も大人の流儀として若い指導員を励まし、門下生を励まし、迷惑をかけないように、目立たないように教えをこいいたいと思います。合気道の発展を願ってやみません。

自分を変える 一般の部 男性

私が入会した理由は、自分を変えなかったからです。私は小学校ぐらいの時に、よくイジメられていました。理由は多分、気弱で体も弱かったからです。

イジメられてからは、人が少し怖くて、中学、高校、と友人はほとんどいませんでした。

そんな状態が続き、精神的に不安定になりひきこもりがちでした。

そんな状態が続きこれではいけないと思い、体を鍛え始めました。

体を鍛えていくうちに、少し自信を取り戻し精神的にも安定してきました。

体も少し鍛えられ、もっと自分を変えたいと考え、武道や格闘技を習いたいと思い探しました。かなり近くにあるのを知り、恐る恐る道場に行くと若い方や年配の方が、一緒に稽古している姿を見て入会を決めました。合気道については習って間もないのでよくわかりませんが、すこしでも理解できるように続けていきたいと思えます。
